

坪井 健先生のご退職によせて

社会学科主任 李 妍 焱

坪井健先生は2018年3月末に定年退職を迎えられます。歲月矢のごとし。平凡ですが実に感慨深い言葉です。「『健』と書いて『つよし』と読みます」と、毎年この台詞で新入生への自己紹介を始める先生の笑顔が浮かんできます。

1978年に助手として着任されてから実に40年間、先生は情熱とエネルギーを駒澤の学生たちに注いできました。ゼミ生は合計359人(大学院生13人)に上り、社会のさまざまな現場で活躍なさっています。坪井ゼミでは、学生たちを連れて台湾や中国、カンボジアで研修し、現地の大学生と交流する国際的な学習から、地域の商店街の調査、大学の裏門がなぜ閉ざされたかなどといった身近な問題に至るまで、チャレンジングなゼミ研究活動をたくさん行ってきました。2010年からはヒューマンライブラリー研究が坪井ゼミの定番研究となり、7年間で開催が9回に及び、学生たちの執筆による研究成果を書籍『ヒューマンライブラリー事始め』として出版するなど、ヒューマンライブラリーの普及に大きく貢献しました。2014年、坪井ゼミが「世田谷まちづくり大学生プレゼン大会」(世田谷区せたがや自治政策研究所主催)に出場し、「ヒューマンライブラリーによる多様性に寛容なまちづくりプラン」で大会の最高賞である優秀賞を受賞しました。

先生のご専門は社会心理学と異文化コミュニケーションですが、留学生に関する研究がとりわけ知られており、科研費や文科省の委託研究などによる一連の留学生に関する実態調査が、日本の留学生政策の制定に貴重なデータを提供しました。先生の研究成果が30万人留学生計画の土台を支える重要な一部でした。異文化間教育学会や国際アジア文化学会など関連の学会活動にもとりわけ熱心に取り組まれ、理事や常任理事、理事長を歴任し、ご自分の研究室の一

部を学会事務局に使わせるなど、学会の発展にご尽力なさいました。2015年6月に駒澤大学で開催された国際アジア文化学会のシンポジウムに、私も発言者としてお招きいただき、ご一緒できたことが大変思い出に残っております。同僚としてだけではなく、在日中国人の一人として、先生のご研究に心より敬意を表したいと思います。

研究と教育においては常に「熱い」坪井先生。その根気強さとひたむきな姿勢はご趣味にも見事に現れています。この十数年来、先生はジョギングに熱中しており、近所の住宅街や川沿いに収まらず、ソウルの漢江、北京の天安門前、台北の中正記念堂周辺を走り、メルボルンマラソン、ゴールドコーストマラソンにも出場を果たしました。その姿からは、若い頃の先生がヘビースモーカーで大食漢だったとはとても想像できません。車の免許も50歳を過ぎてから取得なされたというので、先生の意志の強さと行動力には実に脱帽です。「本物の意志があればきっとできる」と大変勇気づけられます。

この40年間、坪井先生はその意志の強さと行動力を大学での教育と研究に遺憾なく発揮なされ、貫かれたと思います。ご退職後も、ご家族とマラソンの仲間たちに囲まれながら、先生らしい行動力で充実した毎日を送られることと信じております。坪井先生、長い間、本当にありがとうございました！社会科学一同を代表し、「日々是好日」という禅語のように、先生のこれからの人生を祝福いたします。